

わのえづわ



写真撮影：富井純朗氏



御挨拶

宮司 吉田源彦

北海道には激震が走り、また台風等による被害が広域にわたるなか、被災された皆様方には心からお見舞いを申し上げます。被災地の早い復興と被災者の皆様には一日も早く日常生活が取り戻せることをお祈り申し上げます。被災地は自然の恵みに生かされてきました。しかしながら、時として自然は私たちに猛威を振るい様々な災害をもたらします。私たち一人ひとりがこれを教訓として自然に対する敬虔さを取り戻して行かなくてはならないでしょう。

さて、北海道では徐徐に秋の気配が漂うなか、上川郡東川町にある北海道神宮の神饌田において抜穂祭を御奉仕させて頂きました。神々からの恵みの賜物である稲穂が、今年もご関係の皆様方のお力添えによりかくも豊かに稔りましたことを喜び、感謝を申し上げます。この神饌田は、農業の奨励と農耕に関わる伝統的な儀礼を後代に残そうと、北海道農業共同組合中央会と各産業界の協力により北海道神宮神饌田奉斎会が組織され、今日まで運営が図られてきました。本年は神饌田が東川の地に置かれてより四十年の節目を迎え記念の式典を多くの方々のご参加を得て行うことができました。さらには北海道一五〇年という年回りにもあたり、今年のお祭りは特に感慨深いものがありました。近代に於ける北海道の開拓は農業と鉱業を北の大地に根付かせることでした。当時は寒冷地農業の技術も未熟であり、寒冷地に適した品種改良もありませんでした。ただひたすらに祈りを捧げ、荒涼としたこの大地をひと鍬ひと鍬と耕し、今日の豊かさを北海道にもたら

してくれた、勤勉であり実直でもあった先人達に心より感謝を捧げたいと存じます。

かかる先人達の功績を顕彰し、開拓の歴史のなかに明日の北海道の姿を考えることも大切なことです。北海道神宮の境内には開拓神社という北海道開拓の先駆的な役割を果たした方々をお祀りするお社があります。昭和十三年に開道七十年の記念事業の一環として、境内の一角に施設を設けそこで物故開拓功労者の慰霊・顕彰のお祭りを行ったことに起源します。三十七柱の方々を御祭神にしていますが、開拓神社も今年で創建より八十年を迎えることとなりました。記念事業としてご祭神に対する赤誠としてご社殿を改築しあらたにさせて戴きました。この事業を通してご神威がさらに発揚され、これからの北海道の歩む道に光が差すようにと祈るところです。

来年は御代替わりの年となりますが、天皇・皇后両陛下におかせられましては、益々にうるわしく、お健やかにご公務あそばされますことを、皆様方とともにご祈念申し上げて行きたいと存じます。

祭典行事案内

毎月「二日」

月首祭並吟詠講誕生祭

一日参り(※一月・九月を除く)

「十日」

旬祭並敬神婦人会誕生祭

「十五日」

月次祭並むすび会誕生祭

「二十日」

旬祭並興風会献詠祭

◆十月

五日(金) 午前十一時 献菓祭

十七日(水) 午前九時四十五分 神宮神嘗祭遙拝

午前十時 神嘗奉祝祭並びに

年番引継祭

◆十一月

三日(土・祝) 午前十時 明治祭

二十三日(金・祝) 午前十時 新嘗祭並びに

新穀勤労感謝祭

◆十二月

二十三日(日・祝) 午前十時 天長祭

三十一日(月) 午後三時 師走の大祓並びに

除夜祭

北海道神宮 頓宮

札幌市中央区南二条東三丁目

◆十一月

十七日(土) 午前十一時 社殿奉納記念祭

◆十二月

三十一日(月) 午後三時 師走の大祓

並びに除夜祭

社頭風景

六月
九月

例祭

六月十四日(木)午後三時の頓宮修祓祭にはじまり、午後五時には万灯のお囃子の先導により第二鳥居から松野哲也敬神講社講長をはじめ年番役員が参進し、午後六時から宵宮祭を斎行し、十五日(金)午前十時からは約二百四十名の参列のもと例祭が斎行されました。

北海道神宮例祭は、「札幌まつり」とも通称され親しまれてきました。十四、十五日は神門内並びに土俵舞台などで様々な催しが奉納され、十六日(土)には勇壮な調べを奏でる勤王隊を先頭に、時代装束に身を包んだ総勢千三百名の奉仕員により、九基の山車と共に新緑の札幌の街に出御となりました。

渡御行列は、約十三キロに渡って練り歩き、頓宮及び札幌中心部(南一条西四丁目交差点)で駐輦祭が行われました。



神職参進



鳳輦出御



駐輦祭



山車



福井ばやし



ヨサコイソーラン

夏越の大祓

六月三十日(土)午後三時より夏越の大祓を斎行しました。当日は天候にも恵まれ約二千人の方々の参列のもと、神門下祓所にて祓主による大祓詞の宣読、修祓の後、茅の輪くぐりの神事を行いました。引き続き本殿にて家内安全祭が斎行されました。

私たちは日常生活のなかで、知らず知らずのうちに穢れや罪に犯されます。その穢れや罪を祓い除き、本来の自分を取り戻すために大祓が六月と十二月の晦日に行われます。私たちは古来より一年を二期に分けて生活のリズムを整えてきました。半年ごとの穢れや罪を祓い、活力を得てまた半年を過ごすという信仰による大切な神事です。どなたでも参列することができますので、お誘い合わせの上お参り下さい。



茅の輪くぐり

北海道神宮献茶式

九月十一日(火)午前十時より予定されていましたが、裏千家今日庵坐忘斎千宗室御家元の御手前による献茶式は、胆振東部地震の影響により中止となりました。

第七回七夕まつり

今年も七月三十日(月)から八月七日(火)まで神門前と西回廊に七夕飾りを設置しました。

七夕行事は日本古来の祓の信仰と大陸より移入された星祭りの信仰とが集合し年中行事として定着し今日まで行われてきたものです。

多くの参拝者が願いを書いて短冊を結び、笹がその色とりどりの短冊で覆われるほどでした。短冊には大人、子供、国内、海外問わず様々な方々の願いが込められていました。



飾られた笹

穂多木神社例祭



六月十五日(金)

鉦霊神社例祭



六月二十五日(月)

伏見桃山陵遙拝

七月三十日(月)午前九時より神門下にて、明治天皇の御陵である伏見桃山陵遙拝を斎行しました。



陵遙拝

第四十八回 夏季ラジオ体操会

北海道神宮では、七月二十六日(木)より八月十九日(日)まで、園児・小学生・中学生を対象とした、第四十八回夏季ラジオ体操会を実施しました。期間中は毎日行われ、二日平均約百八十名の子供達が参加しました。ラジオ体操終了後、境内に於いて有志による紙芝居が行われました。



ラジオ体操する子供達

樺太開拓記念祭



豊栄の舞

八月二十三日(木)午前十時より、元樺太在住者とその親族等で結成されている全国樺太連盟北海道支部をはじめ、全国から集まった会員達の参列のもと、樺太開拓記念祭を斎行しました。

この日は日露戦争後に締結されたポ

ツマス条約により、樺太の南半分が日本領となり、その鎮護のために明治四十四年に創建された樺太神社の例祭日にあたり、また樺太の施政記念日でもありました。

旧官幣大社樺太神社は、開拓三神を奉祀し、樺太の総鎮守として樺太豊原市に鎮座し、崇敬されてきましたが、ソ連軍の樺太侵攻により廃社となりました。今日では御祭神を同じくする北海道神宮が、関係者の心の拠り所ともなり、毎年記念祭を奉仕しております。

御鎮斎記念祭

明治二年に明治天皇の詔により北海道の開拓・発展の守護神として大国魂神・大那牟遲神・少彦名神の三神が、東京都宝田町(現在の皇居外苑)の神祇官にて奉斎(北海道鎮座神祭)されたことを記念し、九月一日(土)午前十時より御鎮斎記念祭を斎行しました。

祭典中、平成二十四年の明治天皇百年式年祭に合わせて作舞された「黎北の祈り」が奉奏、午後四時からは北海道神宮

舞楽会による「三条神楽」が奉納され、終了後参拝者達に餅が配られました。



舞楽会による三条神楽

ボーイスカウト札幌第二団 発団七十周年記念式典

七月二十二日(日)北海道神宮に団本部を置く、日本ボーイスカウト札幌第二団は昭和二十二年の発団より七十周年を迎え、北海道神宮境内土俵にて記念式典を執り行いました。式典は開会の辞、開会太鼓により始まり、国旗掲揚、吉田源彦育成会長による式辞、畠山英昭札幌地区委員長の来賓祝辞、祝電披露、スカウト代表の言葉、連盟歌斉唱、国旗儀礼を行い、閉会の辞、記念撮影を以て終了しました。式終了後祝賀会が行われました。



集合写真

天皇陛下幣饌料御下賜

天皇・皇后両陛下には、北海道百五十年記念式典への御臨席と、あわせられて地方事情御視察のため、八月三日から五日の御予定で北海道に行幸啓遊ばされました。行幸啓に際して北海道神宮を含む道内神社五社に幣饌料をお供えされました。伝達式は八月



幣饌料御奉献告祭

三日に行われ、北海道神宮では十日の毎月の旬祭にあわせて「幣饌料御奉献告祭」を執り行いました。

職場体験学習

七月十九日(木)午前十時より午後三時まで、札幌市立西岡北中学校の女子生徒四名が巫女装束を纏い授与所で御守の授与など職場体験学習を行いました。

明治維新並開道 百五十年記念奉祝祭

明治天皇には、新しい時代を迎えるにあたり、五か条の御誓文として大御心をお示しになられ、さらにロシアの南下に対する急務として蝦夷地開拓の思し召しを賜われました。

その開拓を進めるにあたり開拓使を設置し、初代長官に鍋島直正、主席判官に島義勇が任せられました。その後開拓使、多くの移民の方々により開拓がはじまり、今日の豊かな北海道がもたらされました。

明治天皇の大御心、そして開拓の先人たちの労苦を顕彰し、北海道神宮では六月四日に明治維新並開道百五十年記念祭を慎んで奉仕しました。



悠久の舞

開拓神社 鎮座八十年

社殿改築事業

今年には北海道命名百五十年と共に、北海道神宮境内にある開拓神社が御鎮座八十年を迎えました。記念事業の一環として開拓神社の改築工事を行いました。

五月二十九日(火)午後五時より、御祭神の御神霊を開拓神社拜殿に設けた仮殿に遷す、仮遷座祭が執り行われ、御社殿の建て替え事業が開始されました。御祭神に御遷り



仮遷座祭



上棟祭



本殿遷座祭

頂いた翌日より解体工事が開始され、併せて旧社殿の調査を実施しました。

大神様のご加護と工事に携わる多くの皆様
の努力により、工事は順調に進み、七月二日
(月)には上棟祭が行われました。

八月十日(金)午後六時、工事が終わり御
祭神を新しくなった御社殿に御遷しする本
殿遷座祭が行われ、御社殿の建て替え事業
を恙なく終えることができました。

当日は御関係の皆様のご参列を頂き、厳肅
のうちに祭事が執り進められました、かかる

佳節を記念して参列者には記念酒・開拓お
かき・タンブラーを記念品としてお出し致し
ました。開拓の歴史は北海道という寒冷地に
おける米作りの歴史でもありました。今日、
豊かに広がる農耕地にブランド米と称される
お米が収穫され、それによって醸し出される
美酒を私たちは頂いております。その感謝の
意を込めて、記念酒(「五州第一」と米菓子
(「開拓おかき」)を精選し、北海道といえ
ばビールということでタンブラーを添えさせて頂
きました。

例祭



例祭

明治二年八月十五日、蝦夷地から北海道と改称された、まさに「北海道」が生まれた日であり、この日を開拓神社の例祭日と定めて厳粛に祭典を執り行つて参りました。本年は、開拓神社御鎮座八十年の節目の年にあたることから御鎮座八十年の奉祝もかねて例祭は斎行されました。

八月十四日(火)午後三時、開拓神社にお納め頂いた皆様の願いが書かれた木札をお焚き上げすることで御祭神へとお届けする、「開拓神社祈願札焼納祭」が執り行われました。積み上げられた木札は祓い清められ、神前にて祝詞を奏上した後、斎主が忌火から松明に火を移し、四方より火をつけ焼納致しました。

同日午後六時、宵宮祭が斎行され、併せて御神輿に御霊を移す御霊代奉遷の儀が執り行われました。本年は八十年の記念事業として、市内の神社様のご協力のもとに御祭神と同じ三十七基の子供神輿による渡御を予定し、北海道神宮東回廊に並べられた三十七基それぞれに御神霊が遷されました。

十五日(水)午前九時より例祭が斎行され、渡御が行われる予定でしたが、雨天のため中止となりました。

同日午後二時半からは記念の奉納行事として和太鼓タヲ北海道、札幌福井ばやし保存会、新川皇大神社北響太鼓(奉納順)により太鼓の演奏が奉納され、境内には力強い太鼓の音色が響きました。



新川皇大神社北響太鼓



札幌福井ばやし保存会



和太鼓タヲ北海道

北海道神宮末社開拓神社 御鎮座八十年奉祝大神輿渡御

八月十九日(日)北海道神宮末社の開拓神社大神輿渡御が斎行されました。この大神輿は高さ十三尺、重さ四、五トン、台輪幅四尺五寸と日本でも最大級と称されるもので、現在では二年に二度出御しております。



曳き渡御



大神輿

写真撮影：富井純朗氏

本年は開拓神社御鎮座八十年を奉祝し、宮出の復興、そして札幌開府の象徴である北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)前の札幌北三条広場アカプラにて駐輿祭並びに担ぎ渡御を斎行致しました。

開拓神社大神輿保存会道神會を中心に全国各地から集まった神輿会が担ぎ渡御を、御発輿から御還輿までの曳き渡御は市民団

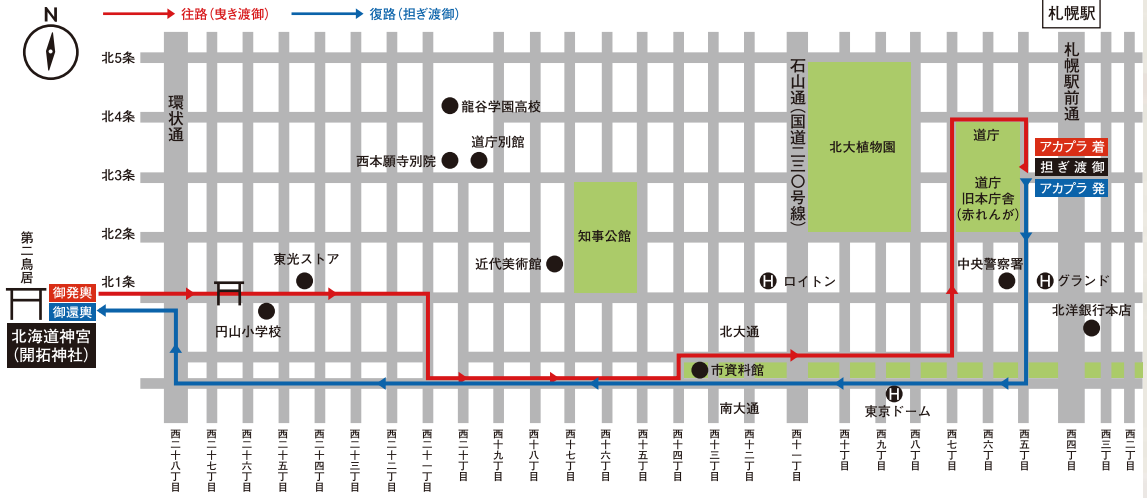


梯子乗り

体和つしよい北開道を中心とした市民の方々によりそれぞれ奉仕されました。
また担ぎ渡御と宮入には一般社団法人北海道篤土木工業連合会による木遣りや梯子乗り、福井ばやし保存会と北響太鼓による太鼓演奏の奉納がありました。

今回で十五回目の出御となった大神輿渡御は、雨天の出発となりましたが、担ぎ渡御が始まる頃には雨も上がり雲間からは日が差し、会場は担ぎ手の威勢の良い掛け声と、観覧に集まった大勢の市民で埋め尽くされ活気に満ちたものとなりました。

平成30年開拓神社大神輿渡御順路 平成30年8月19日(日) (曳き渡御) 午前の部 / 10:30~11:45 (担ぎ渡御) 午後の部 / 14:50~16:05 12:50~14:35



トロフィー授与

第三十一回開拓神社杯
少年野球大会表彰式

第三十二回を迎える開拓神社杯少年野球大会。今年には開拓神社御鎮座八十年の節目ともなり、総勢二十一チームが集結し五月十三日(日)より熱戦が繰り広げられました。七月二十六日(木)には熱戦を制した四チームが札幌つどいむにて決勝戦を行い、東雲ファイターズが優勝の栄冠を手に入れました。準優勝は篠路ライオンズ、三位はユースターズと緑丘ホームマーズという結果で幕を閉じました。四チームには御鎮座八十年記念に際し、記念品を贈呈されました。

八月十五日(水)の開拓神社例祭前には北海道神宮本殿にて表彰式が行われ優勝旗優勝杯が授与され、また優秀選手達には個人賞が贈られました。



松前神楽

開道百五十年奉祝祭

五月二十七日(日)北海道神宮末社開拓神社にて、北海道の青年神職会である北海道神道青年協議会の創立七十周年記念事業として、北海道神道青年協議会の村井二介会長以下会員の皆様により、開道百五十年奉祝祭が斎行されました。式の終わりに吉田宮司より開拓の先人を顕彰する心を若い神主達が持つていくことが大変嬉しいとの挨拶がありました。祭典終了後、記念の御朱印帳の配布と、国の重要無形文化財となった松前神楽の奉納が行われました。

第四十回 北海道神宮神饌田拔穂祭

九月三日(月)午後二時より、上川郡東川町にある北海道神宮神饌田において拔穂祭が斎行されました。吉田宮司が斎主となり、田長を北海道農業協同組合中央会副会長小野寺俊幸氏、田長介助役を北海道農業協同組合中央会営農指導支援センターセンター長平田靖氏、耕作長を東川町農業協同組合組合長樽井功氏がそれぞれ務めました。

北海道神宮神饌田は今年で設立四十年を迎え、耕作者である三田常男氏を始め、東川町の関係者、札幌からの奉仕



稲を収穫する早乙女



記念式典

団含め二八〇名以上が参列し、大神達の恩頼への感謝の誠心を捧げ、北海道の農業の更なる発展を祈りました。

神饌田で奉耕し収穫された「ゆめびりか」は、北海道神宮の御神前、伊勢の神宮の神嘗祭にお供えされる予定です。また、祭典終了後アートホテル旭川にて来賓に東川町町長松岡市朗氏、ホクレン農業協同組合連合会副会長柿林孝志氏らを迎え、約二六〇名が集まり北海道神宮神饌田設立四十周年記念式典が行われました。式の中では、神饌田の周年を祝ったの五十周年に向けて北海道神宮神饌田奉斎会の益々の発展と、日本人の根本とも言える稲作に関する大切な神事を次代へと継承していく事を誓いました。

奉納品並びに 奉納者ご紹介

平成二十九年九月より平成三十年八月までの間、篤志の真心をご奉賛頂きました皆様をご紹介します。誠に有難うございました。(順不同)

一、熊坂 豊夫様

〈奉納品〉石楠花十三鉢(十万円相当)

一、札幌赤レガライオンズクラブ会長 松浦 宏治様

〈奉納品〉八重桜五本(十万円相当)

一、北海道神宮一日講社

〈奉納品〉向拝鈴緒一式(二十万円相当)

一、青木 猛様

〈奉納品〉金三十万円

一、北海道ロードメンテナンス株式会社 代表取締役会長 大野 末治様

〈奉納品〉開拓神社向拝幕(十二万円相当)

一、長尾 勇太郎様

〈奉納品〉カラオケ機器一式(三十万円相当)

一、坂本 由紀子様

〈奉納品〉金十万円

一、小林 芙蓉様

〈奉納品〉書画二幅

一、青木 ミサ子様

〈奉納品〉金十万円

一、大泉 洋久美子様

〈奉納品〉金十万円

一、黒田 賢様

〈奉納品〉書画二幅

第四十八回写生大会

昭和四十五年の第二回北海道神宮写生大会が開催されてより、北海道神宮写生大会は毎年開催されてきました。本年の第四十八回北海道神宮写生大会も、多くの子供達の参加を期待し、様々な形で多くの皆様にご協力を頂きながら、鋭意準備を行って参りました。しかし、台風二十一号の被害による倒木や、北海道胆振東部地震の影響による停電が直前まで続いたこともあり、残念ながら中止の判断を出させていただきました。来年度は平常通り開催する予定ですので、皆様のご参加、ご協力をお願い申し上げます。

責任役員就退任

平成三十年九月二十七日、任期満了に伴い笹嶋昭雄氏、高木典雄氏が退任し、新たに荒邦弘氏、若林雅数氏が九月二十八日付にて北海道神宮責任役員に就任しましたのでご紹介いたします。



荒 邦弘氏



若林 雅数氏

北海道神宮頓宮

盆踊り



八月十三日(月)～八月十五日(水)頓宮境内にて盆踊りが行われ、東地区を明るくする会による屋台が出て雨にも関わらず多くが参加し楽しみました。

夏越の大祓



六月三十日(金)夏越の大祓が斎行され、約二百六十名が参列しました。茅の輪ぐり神事の後、社務所三階に祭場を設けて家内安全祭が行われました

避難者を受け入れ



炊き出しの様子

九月六日に発生した胆振東部地震の際、札幌市指定地域避難所となっていた北海道神宮頓宮では、八日午後五時まで避難所として境内を開放し、一時は約二〇〇名の避難者を受け入れました。

頓宮には停電の影響により水が出なくなったマンションにお住まいの方や、交通機関の麻痺により帰ることができなくなった旅行者など、様々な方々が集まりました。

頓宮の設備・人員ではこれほどの避難者の受け入れは本来ならば困難でしたが、急遽毛布や食料などの物資が運び込まれ、下町づくり社様をはじめとする有志の方々のご支援・ご協力を頂くことで、避難者の方々のサポートをすることができました。ご支援・ご協力を頂きました皆様には心より感謝申し上げます。

奉賛会だより

新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。平成三十年五月十六日から平成三十年八月末日までのご入会の方、またご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。(敬称略)

新入会員のご紹介

石川 亮
紺野 志朗
片平 幸代
江口 義則
熊谷 亘泰
後藤 彰
西原 勲
渡辺 恵士朗
松本 尚央術・真利子
中武 かおる

協賛者のご紹介

◇二万円 北洋設備(株)

(株)美好屋 代表取締役

◇五千円

◇三千円他

竹内 耐俊

竹林 照格

加藤 紀恵子

伊藤 巧

木村 信也

沖田 善輝

畠 和則

滝本 道子

河井 博

瀬戸川 敬司

阿部 真澄

松岡 達子

藤原 嗣允

伊藤 勇一

三浦 操

三浦 啓義

小川 武雄

吉田 光臣

「境内清掃奉仕」のご案内

昭和六十三年から始まり、本年度で三十回目を迎えました恒例の北海道神宮奉賛会の境内清掃奉仕を行います。お誘い合わせのうえ本年も多数のご参加を心よりお待ちしております。

【日 時】十月二十八日(日)

【集合時間】午前十時

【集合場所】北海道神宮社務所ロビー

【日 程】午前十時より午前十一時まで

【申込〆切】十月二十日(土)

【受付】毎日午前九時から午後四時まで

【連絡先】奉賛会事務局

電話 六一一〇二六一

FAX 六一一〇二六四

※寒さが予想されますので防寒着でお越しください。

※雨天の場合は中止となります。

※植樹作業はありません。

※住所、電話番号、会員名を明記し事務局宛にFAXください。ようお願いします。



境内の清掃風景

特集

がんばれ！
北海道

開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの ④

北方探検の先覚者 最上 徳内

今年には北海道命名一五〇年に当たりますが、実はそれより早く蝦夷地と呼ばれたこの大地を探索して『蝦夷草紙』を著した人物がいます。北方探検の先兵、最上徳内がその人です。



最上 徳内

徳内は出羽国楯岡（現在の山形県村山市）の農家の生まれ。家が貧しいため、子守をしながら寺小屋の窓辺に佇み、自習で学問を続けました。

十五歳でタバコ店に奉公に入り、行商して歩くうち、さまざまな知識を身につけ、しかも係数に興味を抱きます。この歩く行商が探検家の素地となる体を鍛えあげたのです。

天明元年（一七八二）、父が亡くなりました。向学心に燃える徳内は、これを機に江戸へ旅立ちます。すでに二十七歳になっていました。

徳内は数学者の串原正峰の元で数学に没頭します。串原は徳内を、自分の師である本多利明に紹介しました。

徳内は本多から、数学を応用した天体暦学、地理

測量、天測航海の分野まで学びます。徳内の人柄に惚れ込んだ本多は、時事問題を説き、そのうえ人間の真の生き方まで諭すのでした。

そのころ、ロシア人がしきりに北辺をうかがっている。この知らせが届きました。仙台藩の工藤平助の意見書を見た幕府老中田沼意次は、すかさず実地調査を命じました。

天明五年（一七八五）、調査団が編成され、本多もメンバーに選ばれますが、健康上無理なので、徳内が身代わりで参加することになりました。最上徳内と名乗ったのはこの時です。仕事は竿取り（測量助手）という低い役目でした。

千島へ渡航する目的で、箱館から測量をしながら太平洋岸を進みますが、厚岸に着いた時、すでに晩秋が近づいていました。やむなく中断。

翌年三月、徳内は厚岸に着くなり、アイヌ民族の首長イコトイやフリウエらの助けで小舟を操り国後島へ。さらに択捉島へ渡つたのです。それは決死的な壮挙でした。

そこで徳内はロシア人を見ます。帰国する船に乗り遅れ、アイヌ民族に助けられたといいます。

徳内はロシア人を連れて国後島に戻ると、折よく上役人が来ていたので、引き渡しました。再び択捉島へ戻り、島の調査をしてから、得撫島へ進みました。ここは日本人の未踏地です。ロシア人の居住跡が数カ所見つかりました。

徳内はリウエンとたがいの言葉を教え合いました。実は松前藩はアイヌ民族が日本語を使うのを禁止していたのです。蝦夷地の事情を幕府に知らせるのを恐れたのです。

ところが幕府内で政変が起こり、田沼は失脚し、その煽りで蝦夷地開拓の計画は潰れてしまいます。徳内も失職しますが、この機を逃しては千島調査は

きないと思ひ、単身、松前へ向かいました。しかし松前藩は厳しく拒絶しました。

師の利明から「体験をまとめるように」と勧められた徳内は『蝦夷草紙』三巻を書き上げました。利明は一読して感嘆し、幕府の要人に手渡しました。そのお陰で、寛政二年（一七八二）、徳内は普請役下役に任用され、さらに普請役に昇進します。翌年、部下を率いて蝦夷地へ入り、さらに北蝦夷地樺太に渡り、現情を調べました。ここでアイヌ民族が大陸系民族に圧迫されているのを知ります。

その後、徳内に案内されて択捉島に渡つた近藤重藏は「大日本恵登呂府」の標柱を建てます。寛政二年（一七九九）、幕府は蝦夷地の山道開削に乗り出し、徳内が指揮して様似山道、様猿山道を切り開きました。

北方警備が叫ばれ、奥羽緒藩を蝦夷地防備につきました。文化四年（一八〇七）、徳内は斜里に赴任し、斜里場所防備についた津軽藩兵の監督に当たりました。多くの死者を出すなか、毒草まで食べた徳内は、その風貌から、「最上のヒゲ大将」と呼ばれたそうです。



『蝦夷草紙』=最上徳内記念館蔵

◆プロフィール◆

昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』人間登場！北の歴史を彩る『大君の刀』など。



第八回北海道神宮フォトコンテスト入賞作品(貝沼 正雄)

北の志づめ 第203号

平成30年10月1日発行

〒064-8505
札幌市中央区宮ヶ丘474
電話 011-611-0261
FAX 011-611-0264

北海道神宮社務所